横芝の碑（その五十六）

―〈青少年の間に溶け込んだ率生垂範の教育者〉―

横芝町史の七〇一頁を開いて見ますと、自然石に〝教え子の、兵へ筆とる春の雨、　鉄弓〟と刻まれた句碑の写真が目につきます。

これは、新島の出身で、元上堺小学校長伊藤兵一郎先生の頌徳碑の前に、俳句仲間の〝しののめ吟社〟の皆さんが建てたもので、鉄弓というのは先生の俳号なのです。

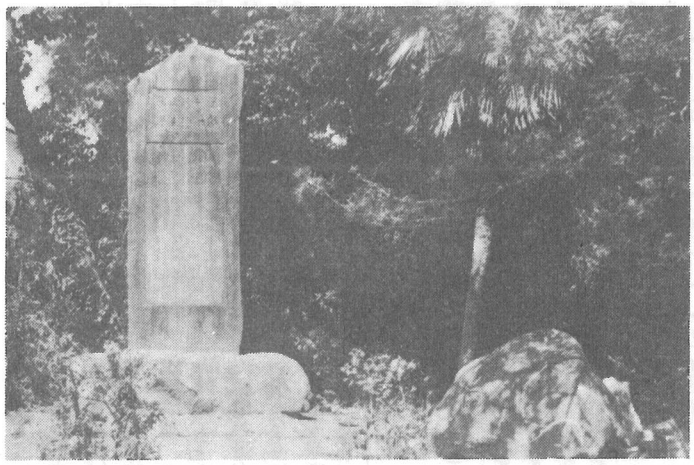
この後には、鉄弓伊藤兵一郎先生が古希を超えられたのを記念し、先生にお世話いただいた、門下生外の皆さんが建立された頌徳碑が建っているのです。（町史六七三頁にも掲載）

兵一郎先生は、僅か十五歳で教員検定に合格されましたが、更に志を立てて千葉師範学校に入学され、卒業後二十五歳の若さで睦岡（現山武町）小学校長に抜擢されましたが、間もなく、林義朗先生（このシリーズその十一「雹害の村再起に献身」参照）の後を受けて郷里上堺小学校長に迎え入れられましたが、先生の郷土愛は大変なもので「林校長に続く名校長」と近隣の評判になる位でした。

先生は、特に青少年を愛され、「学校教育は社会人として役にたつ人造りの場である。」という考えを持たれ、在校児童のためには、児童会、少年消防隊等を編成させ、自分からその長となって自治活動を指導し、また、卒業して行った青少年には、補習夜学校、冬季女学校の開設推進、青年会、処女会（終戦時までは「男女席を同じくせず」という、国の方針から、女性の人は、女子青年団と称して、独立した団体を持っていましたが「処女会」はその前身で、原則として、未婚女性のみが参加していました。）等の団体活動の指導に尽力され、これにも自分から、顧問団体長を買って出られる、という名実共に村内青少年の間に溶け込み、学校の先生ばかりでなく村全体の先生として尊敬され、また慕われていました。

このシリーズは、その一「孝子とくの碑から始まっていますが、その碑の撰文も、実は兵一郎先生の草案によるもので碑文の終りに、

「くれないの　色香もしるき　梅の花、鉄弓」の句が添えられ、前上堺村処女会長伊藤兵一郎撰文と刻まれていますが、この撰文の中にも、健気な薄幸の少女を称える先生の心情が切々と滲み出ており、また現職を退かれて久しい先生が撰文に当られた、という辺り、それから頌徳碑の前に、俳句仲間の皆さんが、先生を忍んで句碑を建てられたという辺りにも、先生の人格と人柄が表現されていると思います。



▲上堺小を眺めるようにして建っている伊藤兵一郎先生の頌徳碑

頌徳碑には、正面題字「伊藤兵一郎先生頌徳碑」の下に先生の功績を次の様に記しています。

伊藤兵一郎先生ハ明治二十年新島ニ生レ、十五歳ニシテ教員検定試験ニ合格次イデ千葉県師範学校ヲ主席卒業、二十五歳ノ若サヲ以テ睦岡小学校長ニナリ更ニ上堺小学校長ニ転セラレタリ、小学校経営ノ傍ラ農業補習学校、冬季高等女学校ヲ設立シ、又女子青年団処女会ヲ組織シテ青少年指導ニ当ラレ、ソノ顕著ナル実績ハ屢々郡及ビ県ノ表彰スル所トナレリ、村民ノ向上ノ為ニハ図書館ノ設立、「友報誌」発刊、「国民かるた」ノ創作等ヲ試ミ、終ニ「教育の郷土化と自力更生」ト題スル厖大ナル著書ヲ自費出版シテ村内ノ各戸ニ配布セリ三十年ニ及ブ教壇ヲ退イテ後ハ農事実行組合長、村会議員、農地委員長、農業協同組合理事、教育委員長ノ要職ニ在ッテ町村ノ開発向上ニ尽力サレタリ、寔ニ偉大ナル足跡トイフベシ、思フニ先生ハ身ヲ以テ範ヲ示ス実行家ニシテ机上ノ空論家ニハ非ズ、天職ノ教育者ニシテ教職ヲ方便トスル者ニ非ズ、愛情ヲ豊カニ蔵シ謙譲ノ微笑ヲ浮ベツツ諒々ト説イテ倦ムコトヲ知ラヌ純情至誠ノ士ナリ、先生ノ温顔ハ我々授業生ノ胸臆ニ深ク刻マレテ払拭セントスルモ能ハズ今ヤ先生ハ齢古希ヲ超エ二子トモニ医学博士ノ栄位ヲ得テ一家ハ愈々安泰ナリ茲ニ門下生一同相図リ頌徳ノ碑ヲ建テ、先生ノ徳業ヲ永遠ニ記録セントス、東大文学部長、文学博士　麻生磯次撰、

昭和三十四年二月、門下生外有志一同と刻まれ、その裏面には、発起人として斉藤元一氏・斉藤重良氏等教子三十三名の他、所謂門下生、有志の皆さん三百名近い方々の氏名が刻まれています。こうした大勢の方々の協力で建てられ、しかも懐しい校舎の門前に建てられた碑は、永く青少年の道しるべとして建ちつづけることでしょう。

写真は、その頌徳の碑で、上堺小学校の丁度門前の道路をはさんだ真向いに、学校を眺めている形で建っています頌徳碑の左下に見える自然石が〝教子の、兵に〟の句碑です。（碑の建っている所は、上堺小学校の真向いで、皆さん方の既に御存知の場所と思いますので、案内図は省略させていただきました。

文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿